



# 認知症の基礎学ぶ

25.9.18 毎日 特養ホーム職員が「授業」

宮津・栗田中

宮津市の特別養護老人ホーム「天橋の郷」の職員5人は17日、市立栗田中で認知症について出前授業をした。写真。生徒たちは認知症は誰でもなり得る病気であることを学び、寸劇にも登場。お年寄りの目を見て優しく接することの大切さを身につけた。

現在、認知症の人は全国で300万人で、80歳以上は4人に1人の割合となっている。「天橋の郷」の入所者は70人で、8割は認知症だが、心は豊かに生きている。

職員が仲の良かった姑と嫁に扮して上演。最近、おばあさんが認知症になり、食事をした直後から「ご飯はまだか」と催促し、財布をどこかにしまい込み、「嫁が盗った」と騒ぎ立てる、ぎすぎす

と言いが始まった。生徒は、さあとうする。

生徒たちはグループ別に話し合い、認知症の病気を認め、言い合うのではなく、話題を変えておばあさんの気持ちが届くように提案する役を演じた。

施設長の北條千恵子さんは「福祉のあり方はどういう町づくりをするかに深く関わる。宮津の福祉をどうしていくかを考え、動いた第一歩になった」と話した。

【塩田敏夫】